



第8回総会&現地報告会

【東京】10月1日(土)武蔵野芸能劇場

【大阪】10月8日(土)高槻現代劇場

申し込み開始!ご参加をお待ちしています。



第8回公式訪問報告

夏の訪問、スイカ割り大会も!

スイカや桑の実を持って

会員の皆様、残暑お見舞い申し上げます。
私と運営委員3名は、8月3日、今年のアフガニスタン公式訪問を終え、帰国いたしました。

一年半ぶりのアフガニスタンでしたが、垣間見た人々の表情からは「今日」を生きることに必死な様子がうかがえました。自爆テロや戦闘に巻き込まれて死ぬかもしれないことよりも、家族をどう食べさせていくかのほうが、より切実で大切ということでしょうか。

今回の訪問で、故サフダル校長の家族と面会し、今後に向けての話し合いを無事、終えることができました。皆様から多額の基金を寄付していただいた責任の一端を果たせたような気がしてホッとしております。

私たちの到着は前期終了間際だったので、すぐに夏休みに入りました。休みといっても、子どもたちは連日、冬に備えた干し草運びと干し杏作り、小麦の刈り入れと大忙しです。

子どもたちのそんな夏休みの様子は、10月1日の東京での総会・報告会、10月8日の大阪での報告会でパネル展示します。ぜひいらして、ご覧ください。背が伸び、表情もおとなびた子どもたちの姿に触れることができると思います。

長谷川洋海



第8回公式訪問報告

7月25日から10日間、毎年恒例のアフガニスタン訪問を行いました。今回は長倉代表と運営委員の森、高橋にあわせて、天野が初参加代表と天野から現地の様子をご報告します。

報告／長倉洋海

毎年、春の訪問が定例だったが、今年は4か月遅れの夏となった。カブールはうだるような暑さ。安井さんのところで1泊し、購入してもらっていたノート800冊と1年生用のザック、さらに買い込んだ交流会用のお菓子やジュースを携え、一路、パンシールへ。今年は安井さんが最初の2日間、同行してくれるというので心強い。マスードの廟とサースデインの墓を訪れ、カブールで買ってきた花を捧げる。

サフダルの家族と

昼過ぎ、学校に到着したが、すでに生徒は下校。川上のドロナ村で、サフダルの妻と6人の子どもたちと面談。話の中で、サフダルが子どもたちと杏やリンゴを植えていた庭も、一家の土地でなく借地だったとわかって、ショック。彼は家を残したただけだった。また、妻は「夫に男兄弟がおらず、生活を支援してくれるような親族もいない。会からの支援金が唯一の収入」という。パーセットの下に障がいのある子が2人いるが、そのほかに、カブールに住むサフダルの姉に預けられた2人の子のひとりも、小児麻痺を患った障がいが残っていることがわかった。

家に男手がなくなったので、首都の車の修理工場から村に戻った長男のサタールのほかに、学校に通っているファトナ（7年）とシャボナ（6年）、パーセット（6年）も、話し合いの場に呼び、「中学を卒業するまでは支援を続ける。成績が良好で、上の学校への進学を希望するならば伝えるようにする」と話した。

サフダルの死後、この子たちが

必死に勉強をして、クラスでファトナとパーセットが一番に、シャボナは二番になったことを聞いている。進学支援の話をした時、3人の表情が一瞬、輝いた。
*「サフダル遺児育英基金」のより具体的な使途については、総会で報告ののち、次号誌面でお知らせします。

子どもたちの再会

学校で再会した子どもはみな元気そうでひと安心。どの子も背が伸び、表情も前よりおとなびて見える。新1年生のシャイな笑顔もとてもかわいい。

クラスの成績上位者に日本から持参した文房具賞品をプレゼント。子どもたちから拍手が起き



津波の映像に見入る子どもたち

る。そのあと、全員に日本製の3色ボールペンを渡す。各村落の子どもにも、昨年から要望されていたサッカーボールを贈呈。昨年撮った子どもたちの写真を渡したあと、3月の東日本大震災について話す。雑誌に載った写真を見せ、パソコンで津波の映像を見せた。

交流会ではケーキ、バナナ、マンゴージュースなどを配る。普段、給食を食べたことがないから、みんなうれしそう。屋外でスイカ割り大会も実施した。安井さんの提案だったが、子どもたちには大受け。「右、左」とか「前、後ろ」とにぎやかな声

が響き、当たると大歓声が起こった。スイカ割りの志願者が後を絶たない盛況ぶりだった。ひとつ、残念だったのは、3年がかりの新校舎がまだ完成していなかったこと。最後の20%の予算が下りていないためだという。

先生たちとの話し合いも持った。給与支援はあと2年半。6人の先生が、下の町で研修に通って短大の課程を修了し、この秋からさらに2年間、大学卒業の資格を目指すとのこと。自立へ向けて頑張っていることを知って安堵した。その頑張りや物価高騰の実情を考慮して、給与の10ドルアップを承認する。

話し合いの中でヤシン先生が「高校に女生徒9人が通っている。そのマイクロバスの月額経費2万

5000アフガニー（個人負担は5000アフガニー）をフランスのNGOが支援してくれていたが、ほかにパンシールの4か所ですべて送迎の支援をしているためか財政難となり、あと2か月で支援を打ち切ってしまう」と話す。教育支援は山の学校の会の大切な柱なので、その支援を前向きに検討することを約束した。

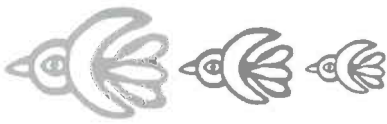
そのヤシン先生に元気がないのが気になる。手足がしびれ、力が入らないという。カブールで医者にかかるように説得する。ヤシンは山の学校の車の運転手をしているし、何より、サフダルのように手遅れになつては大変だ。

初めてのスイカ割り。楽しい夏の思い出になったはずだ



カブール郊外のサフダルの墓。案内してくれた人も、一度は所在を見失うほど、周辺に新しい墓ができていた





復興の兆し

日本にいと、自爆テロや治安の悪化というニュースばかりが流れるが、人々の生活は少しずつだが、確実に良くなっているとも実感した。各家庭には川の流れを利用した水力発電で電気が引かれ、テレビを買ってDVDで映画や歌謡番組を見る家も出てきた。以前は制服さえ買えなかった女生徒たちがイスラム式のスカーフと黒い制服に身を包むようになったのも、ここ数年のことだ。

そして、うれしかったのは、アミンやマジヤミンが住むガーウィン村で、村人たちがお金を出し合いい、牧童を雇うようになったことだ。子どもたちが学校を休んで、一日中、山で羊や山羊を追う必要がなくなったのだ。落第する生徒も減るかもしれない。

山での5日間の滞在を終え、ヤシン先生とカブルに戻る。カブルで血液検査などをして診察してもらった結果、ピロリ菌やバクテリアのせいではないかという見立て。とりあえず15日間の投薬をして再度検査するという。ヤシン先生も安堵した表情。だが、驚いたのは270ドルという医療費。これでは、庶民は医者にかかることができない。復興の兆しとまだ残る厳しい現実。それが現在のアフガニスタンの姿なのだろう。

ニューデリー、バンコクを経て成田に到着した瞬間、もう山の学校の子どもたちの笑顔や仕草が懐かしくなった。

はじめてのアフガニスタン、山の学校

文・写真/天野みか

いつもの訪問メンバー長倉代表、森、高橋とともに現地訪問に参加することができました。日頃から旅慣れているわけでもなく、言葉も不自由だった、「はじめてのアフガニスタンの旅」の印象を綴ってみたいと思います。

アフガニスタンも夏はとにかく日差しが強く暑かったのですが、湿度が日本と比べものにならないくらい低く、ことにバザラック、ポーランドといった山の村では朝晩が寒いくらいでした。ご存じのように女の子たちはスカーフで頭(髪)を覆い、長袖の服を着ていますが、このスタイルはとてもじゃありませんが真夏の日本ではつらいでしょう? からっとした気候のなせる技だと思います。

これまで写真で見っていた校舎、そこは訪れてみるとほんとうにこぢんまりとしていました。一部屋ごとに机と椅子、黒板、そしてゴミ箱がひとつ。ああ、これだけでも充分勉強は可能なのだなあと感じました。しかし、3年生はテント、1・2年生もコンテナでの授業。半日の授業時間でない体力が保たないのがよくわかります。いまだ完成していない新校舎が早くできあがるといいのにと強く思いました。

学校生活がシンプルなだけではなく、滞在したヤシン先生のご自宅も、また食事に呼んでいただいた先生や生徒の家も、全体的にあまりモノがなく、清々した印象でした。とくに、ヤシン先生の家は常に掃除がゆきとどいており、気持ちよかったです。

特記すべきと旅の最中から考えていたのが、遊園地のアトラクションのように縦に横に跳ねながら走る自動車での道行きです。大きな石がごろごろとしており、私などはしっかりした登山靴でないと歩けないような急勾配も含む道が子どもたちの通学路。この道を

元気な子どもも、義足の用務員さんも、片足に松葉杖の男の子も、とにかく歩いていきます。女性の先生方や遠くの高校へ通う女の子たちを車で送り迎えしなければならぬことも、その自動車自体の保ちが悪いことも、さもありなんと実感しました。

子どもたちはなんともいえず純朴で子どもらしい子たちでした。とくに、高学年の男の子たちがまったくすれておらず、はにかみながらも握手をしてきちんとあいさつしてくれる姿が印象的でした。年かさの女の子たちには囲まれて熱心に質問されました。なにを聞かれているのかわからなかったのも、とにかくうなずいていたら「結婚しているのか?」と聞かれていたらしい。思春期の女の子の興味はどの国も同じなのかもしれませんね。

訪問行事のハイライトはなんといってもスイカ割りでしょう。その様子は現地報告会の会場にて映像をご覧いただける予定です。

最後に、ぜひともお伝えしたいのが、前述の安井さんのことです。今回の旅で、アフガニスタンに住まれ、現地の生活や人々のことを熟知し、いつも適切なアドバイスをしてくだ

さっている安井さんが、当会にとっていかに重要な人物かということを実感しました。ジャーナリストでもあり、また、以前カブルの難民キャンプにつくった小学校の校長先生も務められていた安井さんは、いつも大らかな笑顔で、また厳しさが大事な場面ではびしっとした対応で、アフガニスタンの人たちと私たちを繋ぐ役割を担ってくださっていました。小さな1年生に「こうして使うんだよ」とリュックを背負わせてあげたり、高学年の生徒たちに真剣な表情で津波の説明をしたり、スイカ割りのときは人一倍楽しんでいる姿が印象的でした。



今年の1年生たち

写真パネル展を開きませんか? 貸出料が無料になりました!

私たちの活動も8年目になりましたが、相変わらずメディアにおけるアフガニスタンの話題は少なく、あったとしても悲しいものばかりです。「この国の文化や生活をもっと知りたい!」「一般の人にもっと関心を持ってもらいたい!」というのが私たちの共通の願いだと思います。

そこで、残り2年半の活動資金にある程度の目処がついてきたこともあり、このたび写真パネルの貸出料を無料にしました(借り主が会員の場合に限りです)。

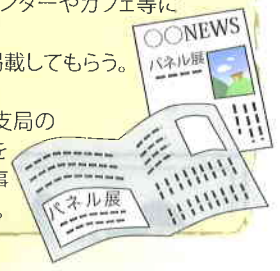
多くの場所でパネル展を開催していただき、よりたくさんの方々にアフガニスタンや、そこで暮らす子どもたちに関心を持ってもらえればと思っています。あなたも写真パネル展を開催してみませんか?

パネル展を開くって大変そう!? いえいえ、そんなことはありませんよ。以下に手順をご説明しましょう。

Step4 告知・宣伝をする

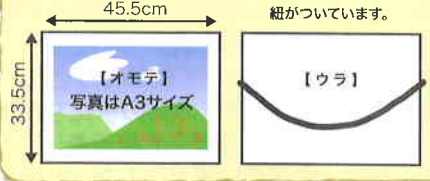
せっかくパネル展を開催するのなら、より多くの人に見に来てもらいたいですよね? 地域一般に公開する場合、事前に宣伝しておくことが重要です。といっても難しく考える必要はありません。例えば...

- ・チラシをつくって、コミュニティーセンターやカフェ等に置いてもらう。
- ・地域のミニコミ誌のイベント欄に掲載してもらう。
- ・新聞地方版(大抵、紙面のどこかに支局の連絡先が載っています)にチラシをメールorファックス!取材や告知記事の掲載をお願いすることもできます。



Step1 会場を決める

ご近所に公民館やギャラリーカフェはありませんか? 使用料が無料、または手頃な場所がいいでしょう(過去の例: 学校、商工会議所、診療所の待合室など)。会の活動内容を説明すると安くてもらえる場合もあります。



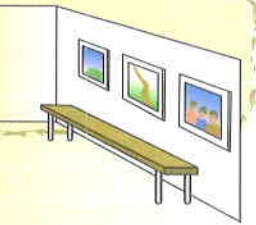
また、写真パネルは壁にぶら下げる形になっています。壁などに立てかけて置くのも可能です。

Step5 写真パネルが届く

写真パネルが宅配便で届いたら、念のため「枚数は正しいか」「破損がないか」などを確かめてください。
 ※申し訳ありませんが、送料はご負担ください。

Step6 会場のセッティング

写真パネルやキャプションの位置など、いろいろ悩みますが、ここが工夫のしどころ。あれこれ考えてワクワクするひと時です。



Step2 日程を決める

過去の例では3日~1週間程度が多いようです。また、写真パネルの一回の貸出期間は原則として2週間以内です。貸出が重なる場合もあるので、候補日程は複数をご用意ください。



いざ開催!!

たくさんの方に見に来ていただけるといいですね! 「感想ノート」を置いてみるのも一案。



Step3 事務局に連絡する

借り方のお名前、会場、日程等をお知らせください。不安や疑問がありましたら遠慮なくどうぞ!その後、事務局から送られた「写真パネル貸出に関する合意書」に、必要事項を記入・捺印のうえ返送してください。



終わったら...
 直後に別のパネル展が予定されている場合もあります。写真パネルはお早めにご返却ください。
 お疲れさまでした!

事務局から

●第8回総会・現地報告会および、大阪現地報告会のご案内と申し込みはがきを同封いたしました。たくさんの方の参加をお待ちしています。

●2011年度分割会費の納入、ありがとうございました。

●未納の方には再度、郵便振替用紙を同封いたしましたので、納入くださいようお願いいたします。なお、会費残額を一括納入されてもかまいません。残額は封筒宛名ラベル下段の数字で表示しています。(前号で、こちらの数字を「納入済金額」と誤ってお伝えしました。正しくは「会費残額」です。お詫びとともにも訂正いたします)

●ご提供いただいた不要切手は、今号の発送ですべて使い終わりました。ありがとうございます。引き続きご協力をお待ちしております。書き損じはがきも歓迎です。

●住所変更の場合は、お手数ですが事務局にご連絡をぜひお願いします。

●2012年JVC国際協力カレンダーのチラシを同封いたしました。長倉代表の写真ではありませんが、ご購入いただけますと、売り上げの一部が当会の支援金となります。ご協力をお願いします。

●山梨県南巨摩郡 身延町総合文化会館
 7月24日、NPO法人みのぶじユアコーラスによるLove & peaceコンサートイベントおよび、長倉代表の講演「私が出会った子どもたち」に併せて、パネル展が開催されました。



(写真/山本晴美さん提供)

ちやるばーさ ミニコンサート開催決定!

アフガニスタンの音楽を聴いたことはありますか?

今年の現地報告会(東京・大阪)では、アフガニスタン音楽の演奏者である「ちやるばーさ」さんにミニコンサートを開いていただく予定です。

ちやるばーさは、やぎさとさん、佐藤圭一さんのお二人のユニットで、2008年東京での第5回現地報告会でも演奏していただきました。やぎさんの透き通った歌声と佐藤さんの奏でる弦楽器ルーパーは、しばし私たちを別世界へいざなってくださいました。

さあ、今回はどんな音色を聴かせてくださるのでしょうか。普段の生活でアフガニスタンの音楽を耳にすることは少ないと思いますので、皆様、ぜひこの機会に直に体感してみませんか!

*小誌13、14号でちやるばーささんのインタビューを掲載しています。